

令和元年度第2回 淀川区区政会議 議事要旨

日時：令和元年10月2日（水）18:30～20:37

場所：淀川区役所 5階 503～504 会議室

出席者：

- ・ 委員（22名中20名出席）
- ・ 増田委員、田中委員、和田委員、堀委員、米田委員、福岡委員、川阪委員、中井委員、奥委員、米山委員、西澤委員、英委員、川合委員、石田委員、中本委員、光在委員、泉水委員、永野委員、中道委員、横山委員
- ・ 市会議員
坂井議員、寺戸議員
- ・ 区役所
山本区長、中喜多副区長、西総務課長、久保政策企画課長、畑中市民協働課長、鳶岡保健福祉課長、武田保健・子育て支援担当課長、榊原教育支援担当課長、
松尾政策企画課長代理、山崎市民協働課長代理、
大下保健福祉課福祉担当課長代理、大畑保健福祉課副主幹 他

内容：

1. 開会
2. 区長あいさつ
3. 議長、副議長の選出
4. 議題
(1) 2019年度淀川区運営方針中間振り返りについて
(2) 若年層向け淀川区民アンケート結果について
5. その他

資料：

- 次第、全体会議進行表、委員名簿、座席表、配付資料一覧
- ・ (資料1) 2019年度運営方針中間振り返り（概要版）
 - ・ (資料2) 令和元年度 第1回淀川区民アンケート集計結果
 - ・ ヨドマガ10月号
 - ・ ご意見票
 - ＜その他＞
 - ・ まちセン通信8月号

- ・ヨドまち未来セッション防災連携チラシ
 - ・淀川区防災 LINE チラシ
-

1. 開会

2. 区長あいさつ

3. 議長、副議長の選出

泉水委員を議長、増田委員を副議長とすることに決定。

4. 議題

(1) 2019年度淀川区運営方針中間振り返りについて

●資料1について説明

(西総務課長、久保政策企画課長、畑中市民協働課長、鳶岡保健福祉課長、榊原教育支援担当課長、武田保健・子育て支援担当課長、大下保健福祉課福祉担当課長代理)

○質疑

・新大阪駅の帰宅困難者対策は新大阪駅内での安全確保のみを想定しているのか、周辺の地域を巻き込んだ対策を想定しているのか？(増田委員)

→交通利用者は交通事業者の責任で駅構内において安全を確保すること、企業は可能な限り従業員を帰宅させず、会社内での安全確保に協力いただくよう啓発活動を行っている。新大阪駅周辺にあるホテル利用者の対応については協議会で現在調整している。(山崎市民協働課長代理)

・防災イベントの満足度が高く、意義のあるイベントであり、多くの人がアンケートで地域の防災訓練にも参加してみたいと回答していた。しかし実際には、地域の防災訓練とのギャップもあると思うので、参加者を増やすためにも訓練の内容について行政で力添えをしてほしい。(泉水委員)

→10月、11月、2月の防災訓練では、区役所からも訓練内容についての提案をさせていただければと考えている。(山崎市民協働課長代理)

(2) 若年層向け淀川区民アンケート結果について

●資料2について説明

(藏本政策企画担当係長)

○主なアンケート結果

- ・ 若年層に絞ると回答率がよくなかった。(回答率 17.7%)
- ・ 「地域活動に参加したいが参加したことがない」と答えた若者は全体の約30%だった。
- ・ 参加したことのある地域活動は盆踊りや夏祭りなどイベント的なものが多かった。
- ・ 町会に加入していない、加入しているかどうかわからないという割合が半数を占め、理由の多くは「存在を知らない」、「加入の方法がわからない」、「負担になるのでやりたくない」という理由であった。
- ・ 災害時にボランティアをやりたいという割合が47%と多かった。
- ・ 町会でのつながりは消極的に感じている一方、災害時のつながりを必要としていると答えた割合が約70%もいるという結果になった。

「若年層に対してのアプローチ方法について」の意見交換を実施

○「教育・子育て部会」グループの意見発表（発表者：川合委員）

- ・ 各種団体の活動内容について知っていただくためにも地域ごとにその地域の活動を紹介する冊子を作成し、転入してきた方に配ってみてはどうか。
- ・ 役員の子どもさんが参加すると役員をしていない人やその子どもも参加してもらえる傾向にあるのではないか。
- ・ 居酒屋などで若者が集った時に、ボランティアへの協力依頼をしたら承諾してくれる人もいた。
- ・ 子ども夜警に参加した子どもの親に地域の役員になってもらうよう呼びかけることで若い役員を増やすことができた。

○「安全・安心なまち部会」グループの意見発表（発表者：増田委員）

- ・ 若い人たちに参加ではなく参画してもらうために企画段階から入ってもらうことで、大人だけで行事を行っているのではなく、子どもからお年寄りまで幅広く参加していることをアピールしていく必要がある。
- ・ 地域の若者にLINE スタンプを発案してもらい、コミュニティビジネス化、ソーシャルビジネス化に向けた提案をしていくなど、若者に運営を任せ、大人はそれについていくような形で行ってみてもよいのではないか？
- ・ 普段は忙しく活動に参加できない若者向けに、常にLINE でつながっていていざという時はみんなが助けに来てくれる、というようなまちづくりをしていくのも良いのではないか。

- ・ 祭りやイベントになら参加したいという若者に向けて、夏祭りやイベント内で防災フリマや防災フェスティバルを行うことにより防災に関する啓発をしてみてもどうか。

・

○「コミュニティ力向上部会」グループの意見発表（発表者：中井委員）

- ・ 参加してみたいが参加したことがないといった隠れたニーズを持っている人は、興味があれば参加してくれる可能性があるので、情報発信に力を入れる必要がある。
- ・ 淀川在住にかかわらず、昼間人口に目を向けて、事業所やNPOに声をかけてみてどうか。
- ・ 学校で実施する防災訓練で、親子に限らず、PTAや年配者も一緒になって防災訓練をすることが若年層の掘り起こしにつながるのではないか。